



## 世界経済のトレンド丸解り！今週の注目レポート



このコーナーでは、フィナンシャル・インテリジェンス部に配属された新人のルミが「世界経済の今・そしてこれから」を把握するために是非読んでおきたい、今週の重要レポート・ニュース記事を紹介します。（原則月曜日更新）

「（おっ…？榎原くんのパソコンもうついてるじゃないか、俺よりも早く出勤してるなんて珍しいな。彼女もついに真面目になったか…！）…って、ん？？榎原くん！なんでオフィスでゴロゴロしているんだね君は！」

「あ、広木部長じゃないですか〜。おはようございまーす。」

「呑気におはようございまーす、じゃないよ！なんでこんなところで寝ているんだね？！ここは家じゃないんだぞ！」

「今日はぐでたまになりたい気分なんですよ〜。だからゴロゴロしているんです。」

「ぐでたま？ぐでたまって何者だ？！」

「え、広木部長ぐでたま知らないんですか？TBSの『朝チャン！』に出てるキャラクターですよ。いまちびっこから大人まで大人気なんですよ。ぐでたまダンスっていうダンスまであるんです。」

「そんなの知らん！俺はカトパンのファンだからフジテレビの『めざましテレビ』しか視ないんだって言うてるだろう！でも金曜日だけは日テレの『ZIP!』を視るんだ、鈴木杏樹だから。やっぱり、いいよね〜、鈴木杏樹！って何余計なこと言わせるんだよっ！」

「別に聞いてないのに勝手に広木部長が言ったんじゃないですか」

「で、そのぐでたまってのはどうせ気持ち悪い変なキャラクターなんだろう？」

「ブー！チョー可愛いんですよ！私が今からぐでたまダンス踊るので広木さんも一緒にどうですか？」

「バカモーン！朝っぱらからオフィスで踊ってる社員がどこにいるんだ！！」

「ここにいます(きっぱり)」

「(ぐったり)」

「部長！朝からそんなに疲れていたら今日の仕事頑張れませんよ、元気をだすためにもぐでたまダンス踊りましょう！では、いきますよ〜！！」

「バカモーン！俺が疲れている原因は君なんだよ！ぐでたまはもういい！今週の課題はちゃんとやってきたかね？」

「はい、もちろんです！今週もバッチリですよー。こちらです！」



### 今週の注目レポート・重要ニュース

#### ■ 経済指標や重要イベントなど

##### 【1.米国】

先週の米国株式市場はウクライナ問題の好転や発表された住宅市場関連の経済指標が市場予想を上回る好内容だったことから上昇しました。ダウ平均は週間で2%超上昇し、約1ヶ月ぶりに1万7000ドルの節目を回復しました。また、S&P500は21日に史上最高値を更新しました。



### 1-1. 住宅関連指標

18日に発表された住宅市場の先行指標であるNAHB住宅市場指数は55と改善と悪化の節目となる50を上回り、市場予想を上回って改善しました。また、19日に発表された住宅着工件数や21日に発表された中古住宅販売件数も市場予想を上回る増加を見せ、米国住宅市場の回復加速が鮮明となりました。

### 1-2. 消費者物価指数

19日に発表された消費者物価指数（コア）は前月比0.1%の上昇と市場予想の0.2%の上昇を下回りました。

### 1-3. 米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨

20日に発表された7月に開催されたFOMC議事要旨では、労働市場が予想を上回るスピードで改善しているとの認識が共有されるとともに、今後もそういった状況が続けば利上げが早まる可能性も示唆されました。ただ、利上げには労働市場の1段の改善が必要との認識を持っている委員会参加者の存在もあり、急激な利上げの早期化観測にはつながりませんでした。

### 1-4. ジャクソンホール年次経済シンポジウム

22日に開催されたジャクソンホールのシンポジウムではイエレンFRB議長やドラギECB総裁の講演が行われました。大きな市場の注目を集めていましたが、特段の目新しい内容は発表されなかったため市場は無難に通過した格好となりました。

### 1-5. 住宅関連指標

25日に新築住宅販売件数、26日に住宅価格指数、27日には住宅販売保留指数が発表されます。先週の住宅関連指標は軒並み市場予想を上回る好内容だったため、上記の3指数も堅調な内容が期待されます。

### 1-6. カンファレンス・ボード消費者信頼感指数

26日に個人消費の先行指標であるカンファレンス・ボード消費者信頼感指数が発表されます。先に発表された同じく個人消費の先行指標であるミシガン大学消費者信頼感指数が先月から大きく落ち込んだため、カンファレンス・ボードも同様の動きとなるか注目されます。

詳細は「米国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント」をご覧ください。

## 【2.欧州】

ウクライナ情勢が一定の改善を見せたことで、ドイツのDAX指数やイギリスのFTSE100など主要な欧州各国の株価指数は上昇しました。

### 2-1. ユーロ圏の4-6月期のGDP

先週はユーロ圏で購買担当者景気指数（PMI）が発表されました。欧州全体では製造業（51.8→50.8）とサービス部門（54.2→53.5）とそれぞれ市場予想を下回って前月から悪化しました。ド



イツは製造業（52.4→52.0）、サービス部門（56.7→56.4）とともに小幅に悪化したものの、市場予想は上回る結果となりました。

### 【3.日本】

日経平均は8月11日から21日まで昨年末以来約8ヶ月ぶりに9日続伸となりました。22日に上昇すれば1988年以来26年ぶりの10連騰となるところでしたが、連騰への警戒感やイエレン議長の講演を控えていたことから利益確定売りが優勢となり、10連騰の達成はなりませんでした。

#### 3-1. 消費者物価指数

29日に全国消費者物価指数(CPI)が発表されます。市場では前年同月比3.3%の上昇と前月の3.6%の上昇から伸びの鈍化が予想されています。

#### 3-2. 労働関連指標

同じく29日に失業率および有効求人倍率が発表されます。労働市場の改善で人手不足による供給制約の問題も取り沙汰されており、注目されます。

#### 3-3. 鉱工業生産

企業の生産動向や設備投資動向を確認する鉱工業生産も29日に発表されます。

### 【4.中国】

上海総合指数は週間で0.6%の上昇となり、6週連続での上昇となりました。21日に発表されたHSBC 製造業購買担当者景気指数（PMI）は50.3と改善と悪化の境目となる50は上回ったものの、前月の51.7から1.4ポイント悪化して、市場予想（51.5）を大きく下回りました。

詳細は「中国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント」をご覧ください。

詳細レポートは以下をご参照ください。

- [日本][チーフ・ストラテジスト広木隆の「ストラテジーレポート」](#)
- [日本][シニア・マーケットアナリスト金山敏之の「投資のヒント」](#)
- [日本][フィスコの「週刊マーケット展望」\(ログイン後限定レポート\)](#)
- [日本][J.P.Morgan \(J.P.モルガン\) 社や TIW 社の「アナリストレポート」\(ログイン後限定レポート\)](#)
- [米国][米国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント](#)
- [中国][中国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント](#)
- [その他] [J.P.Morgan \(J.P.モルガン\) 社の、「マクロ経済レポート ウィクリー・データ・ウォッチ」「グローバル・データ・ウォッチ」](#)



## グローバル・マクロ・ビュー（世界経済の基本観）

### 1.日本（前回からの変更なし）

4-6 月期の GDP は大幅悪化だが予想の範囲内。消費の落ち込みが鮮明に。7-9 月期にどれだけ盛り返せるかが焦点に。消費税再引き上げ決定に向けた夏～秋の景気&政府の対策に注目。

### 2.米国（前回からの変更なし）

景気回復鮮明に。QE は秋に終了、来年の利上げ時期が焦点に。

### 3.欧州（前回からの変更なし）

ECB の追加緩和の効果を見極めるステージ。低インフレ改善と欧州銀行の健全化がポイント。

### 4.新興国（前回からの変更なし）

最悪期は脱しつつある。政治の安定化など好材料も。

「榎原くん、レポートの作成だんだん上手になってきているな…！」

「え、本当ですか？そう言っていただけると嬉しいです！こんなぐでたまみたいなヤツでもやるべきことはちゃんとやってるんです！広木部長、今後はもっと難しい課題を私に任せてくれてもいいんですよ～？」

「バカモン！調子に乗ってるんじゃない！！そんなことよりも君はいつまでゴロゴロしてるんだね、いい加減起きなさい！ほら、仕事を始めるぞ！！！」

「えー、じゃあ起きるので一緒にぐでたまダンスしてください」

「それだけは絶対にイヤだ」

「カトパンに頼まれたら？」

「それはちょっと考えちゃうかも」

「鈴木杏樹にもお願いされたら？」

「そうしたら踊っちゃうかも！」

「そんなことあるわけじゃないじゃない。バッカじゃないの、喜んじゃって」

「…(-\_-;)」



**利益相反に関する開示事項**

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号  
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、  
一般社団法人 日本投資顧問業協会